

平成30年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成30年12月10日（月曜日）

議事日程第3号

平成30年12月10日（月曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤	惣一郎	君	2番	東野	恭行	君
3番	山本	剛	君	4番	吉川	慶一	君
5番	五十嵐	健一郎	君	6番	滝川	正義	君
7番	佐藤	孝	君	8番	新保	峰孝	君
9番	田原	実	君	10番	保坂	悟	君
11番	笠原	幸江	君	12番	斉木	勇	君
13番	中村	実	君	15番	田中	立一	君
16番	古川	昇	君	17番	渡辺	重雄	君
18番	松尾	徹郎	君	19番	高澤	公	君
20番	吉岡	静夫	君				

〈欠席議員〉 1名

14番 大滝 豊 君

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市	長	米田	徹	君	副	市	長	兼	務	長	藤	田	年	明	君										
副	市	長	木	村	英	雄	君	市	民	部	長	兼	務	山	本	将	世	君							
産	業	部	長	見	辺	太	君	総	務	課	長	渡	辺	成	剛	君									
企	画	定	住	課	長	渡	辺	孝	志	君	財	政	課	長	大	沢	喜	昭	君						
能	生	事	務	所	長	土	田	昭	一	君	青	海	事	務	所	長	猪	又	功	君					
市	民	課	長	小	林	正	広	君	環	境	生	活	課	長	五	十	嵐	久	英	君					
福	祉	事	務	所	長	川	合	三	喜	八	君	健	康	増	進	課	長	横	澤	幸	子	君			
商	工	観	光	課	長	大	嶋	利	幸	君	農	林	水	産	課	長	池	田	隆	君					
建	設	課	長	五	十	嵐	博	文	君	復	興	推	進	課	長	斉	藤	喜	代	志	君				
会	計	課	長	大	久	保	岳	生	君	ガ	ス	水	道	局	長	木	村	清	君						
消	防	長	丸	山	幸	三	君	教	育	長	田	原	秀	夫	君										
教	育	次	長	井	川	賢	一	君	教	育	委	員	会	こ	ど	も	教	育	課	長	石	川	清	春	君
教	育	委	員	会	こ	ど	も	課	長	兼	務														
教	育	委	員	会	生	涯	学	習	課	長	教	育	委	員	会	文	化	振	興	課	長				
中	央	公	民	館	長	兼	務				博	物	館	長	兼	務									
市	民	図	書	館	長	兼	務				市	民	会	館	長	兼	務								
監	査	委	員	事	務	局	長	伊	藤	章	一	郎	君												

〈事務局出席職員〉

局	長	松	木	靖	君	次	長	山	川	直	樹	君
主	査	上	野	一	樹	君						

〈午前10時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、大滝 豊議員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、保坂 悟議員、20番、吉岡静夫議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

7日に引き続き、通告順に発言を許します。

田中 中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。〔15番 田中 中立一君登壇〕

○15番（田中 中立一君）

おはようございます。市民ネット21、田中 中立一です。

発言通告に基づいて一般質問を行います。

1、「糸魚川ジオパーク匠の里創生事業」の進捗状況について。

糸魚川市の各種移住・定住促進事業の1つとして「糸魚川ジオパーク匠の里創生事業」のプロジェクトを立ち上げ、3年目が経過しようとしている。これまでの進捗状況及び今後の取り組みを伺う。

(1) 3年間の実績と応募から選考・決定、移住までの内容について。

(2) 株式会社クリーマとの連携について。

(3) 滞在型インターンシップ「糸魚川で暮らす・働く応援プロジェクト」など他の施策との関連と今後の取り組みについて。

2、訪日外国人観光客誘致の取り組みについて。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続き2025年の大阪万博が決まり、インバウンドに寄せる期待が高まっている。

政府は今後4,000万人、6,000万人という訪日観光客を目指して、その受け入れ環境の整備に力を入れており、新潟県では近隣県に比べて苦戦しているインバウンドをてこ入れするため「観光局」を知事直轄の独立部局に格上げする案を発表した。

糸魚川市でも最近、外国人観光客の姿を見かけるようになったものの、まだ弱いように見受けるが現状はどうか。また、受け入れ環境整備はどうなっているか。インバウンドについてどう捉え取り組んでいくのか考えを伺う。

(1) 糸魚川市の外国人観光入込数、宿泊者数や観光目的などについて現状の把握はどうか。

(2) 糸魚川市のインバウンド施策の主な取り組みと今後必要とする受け入れ環境整備について。

3、米の作柄・作況と生産数量目標の取り組みについて。

2018年県産米の作柄及び作況指数は、夏の高温と干ばつの影響を受けて例年よりかなり低い数値となった。

市内生産者からは「収量はいつもの半分」という声も聞かれるほどで、かなり深刻な地域も見られる。

来年度の生産数量目標について、市町村別内示も発表されたが、地域の実情をどう捉え対応して

いくのか考えを伺う。

- (1) 2018年産米の作柄・作況と米価の動向について。
- (2) 干ばつ被害を受けた田の復旧への支援について。
- (3) 生産数量目標への取り組みについて。

以上、よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、実績として28年度に2組3人、29年度に1組1人が移住されました。

また、応募から移住までの内容につきましては、最初に移住希望者からエントリーシートの提出を受け、住居の選定、地域住民との交流、移住体験等を実施した後に正式に応募を受け付け、市移住といたします。

2点目につきましては、全国約13万人の手づくり作家が登録しているというクリーマとの連携は、本事業にとって有効であることから、29年度8月から連携をいたしております。

3点目につきましては、滞在型インターンシップは、地域の気候、暮らし方を体験し、地域住民との交流、仕事体験などを行うことでスムーズな移住につながる有効な手段であり、糸魚川市に移住を検討している方から積極的に活用してもらい、移住・定住事業を推進してまいります。

2番目の1点目につきましては、糸魚川市全体の外国人の観光入込客数については把握しておりませんが、29年度には、谷村美術館・玉翠園、翡翠園に約2,900人から来観いただいております。また、市内の宿泊者数は、2,662人、前年比138%であり、増加傾向にあります。

2点目につきましては、広域連携での旅行博やエージェントへの営業のほか、ホームページなどを活用した情報発信を行っております。

受け入れ環境整備につきましては、看板やパンフレット等の多言語化のほか、各事業者と連携した英語メニューや指差し会話カードの整備、外国人向けガイドの育成など取り組んでおります。

3番目の1点目につきましては、収穫量は平年より減少し、作況は低下となりましたが、一等米比率は昨年を上回るものがあり、品質は確保されたものと捉えております。米価において、コシヒカリほか一部品種において、仮渡金が昨年より上回り、さらに追加の改定があったことから上昇傾向となっております。

2点目につきましては、水田のひび割れ復旧工事や土壌改良材の購入の助成を実施しております。

3点目につきましては、生産数量目標については関係機関と検討を重ね、需要に見合った米を生産できるよう努めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

まず、移住実績ですけれども、今、28年度、29年度が出ましたが、30年度、ことしの移住の実績はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

おはようございます。

お答えします。

移住につきましては、特に30年度につきましては、U・Iターンの家賃促進事業というところが非常に功を奏しておりまして、今のところ30年度については14人という実績があります。そのほか空き家の活用では9人という実績になっておりまして、Iターン者でいきますと23人という、今状況になっております。

〔「議長、休憩をお願いします。」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

暫時休憩します。

〈午前10時08分 休憩〉

〈午前10時08分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

大変失礼いたしました。

30年度の匠の里での、まだ移住の実績には至っておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

先ほどの答弁から合わせて28年度が2組3人、29年度が1組1人、今年度は今のところゼロと。普通こういうプロジェクトを立ち上げて、1年目よりも2年目、2年目よりも3年目と上がつ

ていくのが普通かなというふうに私は思うんですけども。

28年度の9月議会に、私は一般質問をしております。このときには、28年度は4組10名の募集をしていました。それに対して2組4人が移住の意向を固めていると。それから、さらに3組5名が調整中という答弁をいただいています。今の最初の答弁では、それよりもかなり下回っているわけですが、その辺の検証はどのようにされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

あの制度が、今ちょうど3年目に入るわけですけども、ちょっといろいろ募集もかけるんですけども当たりがちょっと低下していると今、状況になってきております。30年度につきましては、今4人の方が希望を出されておまして、こちらのほうでどうかという話を進めております。

検証としましては、初年度、2年目という形で、ちょっと今苦戦はしているのかなという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

3組5名が調整中が、1組1人になったのか、なぜ減ったのか、その辺の検証を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

なぜ減ったのかと言われてもなかなか検証は難しいんですけども、制度のPRも、もう3年目ですので、やっているんですけども、なかなか広がりが出てこないというところが実態であります。そういった意味でのいろいろ交流会とかもやるんですけども、制度のほうもいろいろ住居とかも整えてはいるつもりなんですけども、なかなか上がってこないというのが、今実情でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ちょっと角度を変えて。

申し込んだ方が調整中の中でやめたのか、それとも審査して、あんたはだめよと言ったのか、その辺はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今までの実績でありますけども、正式な移住の体験等を通して、申し込みをされた方については、全て受けているという状況になります。今現在、3組4名の方なんですが、この方については正式な申し込みをして、全てお受けをしているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ということは、こちらへ来て、いろいろ見たり、聞いたり、経験したりする中で、向こうのほうから決定しなかったということで理解してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かにいろいろ体験とかで、こちらのほう、地域をしっかりと見てる中で、ご自身のほうからちょっと移住までは至らないというふうに認識をしております。思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

その原因・理由をしっかりと把握して対応しないと、移住に至らないんじゃないですか。その辺の検証と対策をとっていかなければ、幾ら応募があってもどんどんまた決まらないでいくと。よそへ行ってしまふ。それが今の現実じゃないかなと思うんですよね。

29年度には、じゃあ何人の方、何組の方が応募されました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

29年度につきましては、8組の方がこの事業に関心をお示しいただきまして、手を挙げていただいと。そのうちのお一組が、決定したという状況になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

8組の方が応募して、1組1人だけと。これをどのように受けとめているか、それが大事じゃないかなと思います。

1つの例を挙げさせてもらいますと、ことし今検討している方がいます、福井の方で。金属アクセサリーの作家です。この方は福井の方で、糸魚川クラフトフェア、毎年やってありますけども、

マリンドリームで開催している第2回目から参加していて、糸魚川のことをよくご存じの方です。

この方は、昨年10月に市の指定するフォームでエントリーをしているんですが、それに対する返事が、1週間以上おくれていました。一応、台風の影響ということで理由はありましたけれども、その対応の仕方、これからこの方にいろいろと話伺ったので、これから時系列にいろいろ伺いますけれども、まず、この最初の、去年の10月からの対応の仕方、いろいろ問題があるように思うんですよ。10月にエントリーしたのに返事が11月1日、このおくれをどのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに29年度のことですね。29年の10月にエントリーシートの、メールでたしか当時いただいているという状況になります。それに対しまして、返答が11月に入ってからということで、確かにタイムラグがあるというふうに認識をしております。そこら辺、担当者のレベルでメールの確認、メールですので電話とちょっと違いますので、確認の方法にちょっと時間を要したなというふうに思っておりますし、また、そういったこういう大事な相談については、しっかり早く対応しなきゃいけないというところは、我々もいけないというふうに思っておりますので、そのおくれについては係の中で、情報の共有する中で、今後は改善をしていかなきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

募集をしているわけですね。それに申し込んで、その手段が何であろうと、指定されている、メールだからというのは理由にはならないと思うんですよね。ちゃんと対応していかなければいけないと。このおくれが、この後いろんな、また問題になっていくわけですね。

それともう一つが、同じメールの中で、この人は匠の里制度をエントリーしているわけですがけれども、先ほどの、暮らす・働く応援プロジェクト、こちらのほうを勧められているんですね。何で匠の里制度を申し込んでいるのに、ほかのプロジェクトも一緒に勧めるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

糸魚川で暮らす・働く応援プロジェクトと、議員の3点目の質問にもあると思うんですけども、インターンシップを勧めた理由ということになりますが、糸魚川で暮らしと仕事ということで、クラフト、手づくり作家であると、もう職業的には仕事を持ってるわけでありまして、こちらの事業につきましては、糸魚川での暮らしを見ていただく。それから、地域との交流というものも要素に入れております。やはり今、応募された方は福井県ですので、糸魚川市とは条件が異なっています。

やっぱり糸魚川の暮らしの仕方、それとか地域住民との交流、それから、その地域の独特なお祭りとか、そういったものを見ていただいて、やっぱり選んでもらうには、気に入っていただかなければいけませんので、そういった意味で、この糸魚川で暮らしプロジェクト、糸魚川で暮らす・働く応援プロジェクトというものをお勧めさせていただいたものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

その辺の説明が、その応募者にしっかりされていないんです。なので、この勧められたことに対して、応募者は、匠の里制度に、プロジェクトに応募しているけども、こちらのことはわからないからいろいろと問い合わせをします。その問い合わせをしている最中に、12月4日の担当者からのメールで、このたびのインターンシップの件ですが、12月1日からお一人、その後も受け入れが決まってしまったので、今年度のインターンシップの受け入れは終了と。いきなりやりとりの説明の最中で、一方的に断っていますよね。その辺の事実をご存じか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに今、議員のおっしゃるとおり12月4日ですかね、昨年12月4日になりますけども、担当者のほうから、インターンシップの受け入れの終了ということで案内をさせていただいております。

どうしても行政といいますと予算の枠とか、応募の枠というのがあって、それで担当者のほうも自分の事業といいますと、どうしても予算の管理ですとか進捗というのは、前向きに自分のところは見ていく習性もあったと思うんですね。そういうところで話をしていたのに、今たまたま応募の人数でいっぱいになったという形で終了を告げてしまいましたけども、ここでもうちょっと担当のほうもよく話をしてもらって、事業の中でもうちょっと調整ができれば、踏み越えたんではないかなというふうに思っておりますので、そこは私らのほうからも、もうちょっと何ができるのかということをしっかり捉えて、案内をしなかったのはいけなかったかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

こちらの予算の都合とか定員の都合とか日程の都合とかが、応募者には関係あるんですか。応募者にちゃんとその辺の説明もしたのかどうか。で、納得がいったのかどうか。この人は、納得はいかないし、わけがわからないんですわ。いきなり勧められたものを説明の最中で、もういっぱいになりました。ことは終わりです。諦めてください。それで一番問題なのは、このメールにもあったんですけども、これも聞きました。

匠の里制度をご検討の場合は、空き家見学や地域交流の実施を別途相談させていただきます。匠の里制度を検討の場合じゃなくて、匠の里制度をもともとエントリーしてるわけですね、市の指定のフォーラムで。ちょっと失礼じゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確におっしゃるとおりだと思います。匠の里制度で、制度を利用してエントリーしたいというところで来ておりますので、そこはやっぱりこの内容を見ていらっしゃるのかと思います。担当のほうでは、それのほかにやっぱり自分のわざを持って、ただここへ来るだけでは、なかなか実際の生活という面で困るのではないかなというところで、しっかり地域の交流ですとか住居を見て回るとか、そういった意味でお伝えをしたものだというふうに思っております。制度自体で本当に申し込んでいただいたものについては、そこは尊重していかなければいけないと思いますけども、やっぱり地域交流というところの面もちょっと担当のほうでも頭がよぎってきたのかなというふうに思います。いずれにしましても、インターンシップの終了も含めてなんですけど、もうちょっと踏み込んだ対応が必要ではなかったのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

匠の里プロジェクトに応募したのに暮らす・働く応援プロジェクトのインターンシップのほうにすりかえたのは、こちらからでしょ。そのことに対してこちらから勝手に、はい、いっぱいになりました。それはどう思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

こちらのほうでインターンシップというふうに言葉を出したもんですから、今、企画定住課の事業で働く応援プロジェクトというのがインターンシップ事業としてありますので、つついっやっぱりそちらの事業のほうの進捗をちょっと見てしまって、状況を確認したというところが今回の、ちょっとうまくなかった点なのかなというふうに思っております。いずれにしましても働く応援プロジェクトを、インターンシップという形で紹介をさせていただいておりますので、ぜひそこら辺をもうちょっと柔軟な対応が必要ではなかったのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

インターンシップを断られたんですけれども、12月5日に応募者のほうからインターンシップ

を切られたことについては、とても残念だけでも、インターンシップのほうはだめでも、本来の匠の里プロジェクトの書類は生きていますよねというふうに問い合わせをしているんです。これに対してどのように答えました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

申しわけありませんけれども、その答えについてはちょっと私のほうでは今承知をしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

返事してないんですよ。問い合わせに対して答えていないんです。そのままほったらかしです。後で事実関係、確認してください。

そのままほっとかれて何も連絡なし。それで匠の里プロジェクト会議というのがありますよね、定期的にしていくかどうかわかりませんが。ことしの1月11日にその会議が開かれて、その会議の中でメンバーが担当者の方に匠の里の件をきちんと福井の応募者に連絡をしたかと、連絡するようというふうに会議の席上に言ったそうです。その辺はご存じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

そこら辺の詳細につきましては、1月11日にその会の皆様とお話をしておりまして、応募者への対応がうまくないということは、お聞きしておりますので、あそこら辺の詳細の、どういうやりとりがあったかというのはちょっと私も承知をしてないんですけども、応募者の対応がうまくないよというところはお聞きしているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

平成30年度、ことし募集をしていますね。この2組を募集してるかと思うんです。ホームページに出してありますよね。6月に出しているんですけども、我々、普通感覚からいうと、また募集をかけるなら、募集をかける前、あるいは出してからでも、前に申し込んだ人に、ことしも募集しますから応募してくださいとか、出しますよとか、あるいは何らかの連絡はするのが当たり前じゃないかと思うんですけども、していますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに昨年からつながってる方でありますので、再度、30年度の募集についても、出したときに一報入れればよかったのかなと思いますけども、私の今確認するところでは、そういった連絡を、ホームページには出してはいるんですけども、そこまでちょっときめ細かい対応はしておらなかったというところがあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

きめ細かいというか、プロジェクトとして立ち上げて、一生懸命推進していこうと。予算も使ってやっている事業ですね。予算は、これまでどのように使われてます。28年度、29年度、30年度の予算は、幾らこの匠の里制度に使ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

28、29年度につきましては、もう予算ではなくて決算が出ておりますので、決算の数字で申し上げます。

28年度については1,511万8,000円、29年度につきましては1,392万9,000円、30年度は予算ベースでいきますと1,816万2,000円と、そういう状況になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

3年間で単純に四千何百万、500万円ぐらい、600万から700万ぐらいの予算としてやっていますよね。もう決算としてはもう3,000万近いものが決算でやっているわけですね。大金ですね。そう思いません。その中でこの実績。きめ細かい対応とか細かい話じゃなくて、きちんとやっぱりやるのが、これ普通の常識の話なんで、やっていくべきじゃないかと思うんですが。

で、6月に応募して何の連絡もないから、改めて2回目の8月にエントリーしています。このこととはご存じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに8月の13日に、私のメモではありますけども、応募者の方からエントリーシートを郵送でいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

昨年申し込んだ人が、まだ申し込みが生きていると思っているけども返事がないから、また再度申し込んで、それを見てどのように思いました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに同じ人に2回のエントリーシートを出させていただいたということで、非常に匠の里の事業に深い関心がおありなのかなというふうに思っております。そこら辺の2回は、同じ手間をさせるのではなくて、こっちから一步踏み込んでやれば1回で終わっていたのかなというふうに思いますので、今後そういったことつながりだけはしっかり持っていきたいなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

これについて、エントリーシートを拝受しましたと、今回は早く返信しているようです。で、日を改めて地域交流と住居のマッチングについて相談させてくださいという返信のメールがあったようです。その後、このことについてどのような相談、話がありました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

エントリーシートを受け付けまして、こちらから地域交流とかもありますので、こちらへ来ていただいて見ていただく時間、それから住居のマッチング等もこうありますので、そういったところで相談しましょうということで置いといたんですけども、それから向こうの、作家さんですので活動もあるということで、ちょっと時間を、忙しいというところも聞いておりましたので、その時間を待ってから連絡したいなということで考えておりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

先方は、じゃあこういったことについてどういう話があるかとずっと待っていたんですね。何も連絡がないんですわ。何も連絡してないでしょ。今の話だとそのように思ったということになれば、そうなのかもしれませんけれども、相談させてくださいと言ってるんだから、じゃあどのように進めていくかということについて具体的に提案して、こちらは募集しているんですから、やっていくのが筋じゃないですか。何の連絡もないから、今度9月の22、23に美山でクラフトフェアがあ

りました。クラフトフェアにこの作家さんも参加されるから、火曜日まで滞在を延ばして、延期して、火曜日にじゃあ相談しましょうと、いかがですかというふうに、これは何の連絡もないからそういうふうに話を持っていったんですよね。それに対して何と答えました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

8月から9月の下旬までちょっと時間があいて、お互いの相談しましょうというところの捉え方で、向こうは待っていた、こっちも待っていたと。そういったところの行き違いが起きるかなというふうに思っております。

この当日、担当とのやりとりを見ますと、9月の25日に会いたいということでメールはいただいていたんですけども、ちょうど担当業務の担当者のほうも日程がちょっと詰まって、そこはちょっと面会は難しいという返事はしておりましたけども。我々はやっぱり組織として対応しておりますので、担当1人ではなくて、もうプロジェクトというふうに議員もおっしゃられますので、もうちょっと複数の係員での対応、もしくは係を越えての対応もできたのではないかなというふうに思っておりますので、そこはちょっと担当者がいないという、そういうだけではうまくないというふうに思っております。今後、係を全員で情報の共有をするように対応していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

私もクラフトフェアに行ったときに、この話を聞いてびっくりしました。滞在の日を延ばすから話しませんかと言っているんだけど、担当者が、この日は忙しいからだめと断られたと。今、課長が答弁した中にありましたように、私もすぐにそう思いました。別に、この担当者でなくてもほかの担当者があるんじゃないか、しっかり糸魚川へ来ているときに話をすれば一番いいんじゃないか、平日だし。相手がわざわざ日を延ばして滞在して、話し合いをさせてくださいと。募集するのはこっちですよ。ちょっとおかしくないですか。対応がまずいんじゃないですか。

で、そういうふうに断られたけれども、また先延ばしになっていくわけですから、25日の日にクラフトフェアの主催者と一緒に市役所に来て、他の担当の方と話をされて、それでようやく話が進み始めたというふうに聞いていますが、そうですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員のおっしゃるとおりだと思います。9月の25日に、今までは、29年度もそうだったんですが、どうしてもメールでのやりとりになると、面前での面識がなかったというのがいけなかったのかなというふうに思いますので、この時点で初めて顔を合わせて、お互いのフェイス・トゥ・フ

フェイスで話をする機会があったので、ここからが始まりなのかなというふうに思っておりますし、また、そういったやっぱり面前での話し合いというのは一番大事なのかなというふうに思っております。現在も、これを起因としまして話し合いは続けさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

結局、押しかけるぐらいの形で応募者が来たから話が進んだんですよ。それがなかったら、いまだにどうなったかわからないような話じゃないですか。でも、去年で申し込んだ1年と同じ時期に、また1年たとうとしているわけですよ。ちょっと対応が遅いし、まずいなど。やはりフェイス・トゥ・フェイスと言われましたけども、会って話をしたほうがいいに決まってるわけですが、それを先方のほうから言うてくるんですよ。それを断るといのは、やっぱりおかしいですよ。今度、わざわざ福井のほうへこちらから行ってますよね。これはどんな内容だったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

10月に入りまして、そういった対応もありましたので、担当と担当係長と福井のほうへ出向きまして、膝を交えての話し合いをしたいということで、匠の里創生事業の、事業の説明ですとか、あとやっぱりここに求める、我々のほうでも地域で貢献をしていただきたいと。やっぱりどうしても地域とうまくマッチングをして、地域の行事ですとか地域の特徴ですとか、そういったのもぜひ体験をしていただけないだろうか。そういった話をしてきたというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

どちらにしても対応が遅いし、まずいし、それから、再度申し込みやっていることに対して、おわびだとか、あるいはその辺の説明だとか、そういったことをされていませんわね。特に担当者からは何の、去年からのいきさつのことについての謝罪まではええかもしれませんけれども、その辺のいきさつやら説明やらが十分になされているかどうかという、私が聞いた限りではちょっとないですね。そういった対応の仕方というのは、いかがなものなんじゃないかなと。担当課としてはどう思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

これからも、今話し合いも続けておりますので、そういった話し合いの中で今までの経緯とかも話をしながら、我々もメールでのやりとりというのはなかなか時間もかかったり、メールを見たり

とか見なかったりとかという部分もありますし、そういったところのおわびをしながら、事業の説明をしながら、今良好な関係で進めていくようにしたいと思っておりますし、これまでの対応も特に至らなかつた点については、この該当の方とお話をする中で、おわびもしながら進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

本人は、応募された方は、こちらのことをよく知っていて、この制度を利用して移住を希望してるわけですね。

ただ、やはり対応がこのようだと不安に思うのは普通じゃないかなと。実際、不安にも感じてる。でも何とか新しい土地で頑張っていこうというふうに思っているんで、しっかりやってもらいたいという気持ちはあると思います。

先ほどから課長の答弁聞いててちょっと心配なのは、メールチェックはどのようにされてるんですか。メールだと見ないときもあるというふうに、メールチェックというのは、しょっちゅうしてないんですか、毎日何回も。メールだと遅くなるんですか。でも指定のフォームでは、メールも可なんですよ。ちょっとさっきから聞いてると、メールだとどうもというお話ばかりされてるんですが、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

昨年の話になりますけども、メールを個人宛てのメールにやってくる場合もありますし、そうしますと担当者が休みの場合ですと、とか現場へ行っているとメールが開けないという状況もあります。本年度からは、課の代表メールのほうに送りまして、後は係のほうに振って、情報の共有ができるように対応しておりますので、昨年までは個人で、何といたしますか休みのときにたまたま見なかつたという場合も想定もありますし、そういったところもあつたのかなというふうに思います。それを改善するとして代表メールに送って、後、係で振り分けをしていくという形で、作業を進めておりますので、そこら辺は担当がいなくても見れるような、そういった改善は、取り扱いはしていつてるといふところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

また心配になりました。市の指定のエントリーフォームなんですよ。初めから個人の名前を知ってるわけでも、担当者の名前を知ってるわけでも、個人のアドレス知ってるわけじゃなくて、恐らくホームページか何かからエントリーシートに申し込んで、その指定されているメールアドレスに送ってるんじゃないかと思うんです、ちょっとその辺まで私は確認してませんけども。おたくの

課ばかりじゃなくて、ほかのもみんなそうだと思うんですけども。エントリーシートや指定フォームがあってやりとりした場合、もう送った相手は届いてると思うんですよ。見てると思うんで、それが当たり前じゃないですか。その対応は、市全体は一体どう考えているのかという話になってきますわね。ちょっと心配になりました、この辺のことは。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

エントリーシートにつきましては、市というか課の代表メールになっておりますので、多分ちょっと私も詳細は今お答えできないんですけど、課のほうに来たのかなというふうに思っております。

ただ、個人的な相談の日程ですとか質疑があった場合の答えは、当初は個人のメールでやっている場合もありますので、代表で大事な、シートについては、代表メールのほうに届くようにはいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

こういう情報の共有というものは、国務省もそうなんですけども、共有しなきゃいけないんじゃないですか。で、対応がおくれたらやっぱり、今このプロジェクトは一刻も争うかどうかはあれですけれども、他の課によっては一刻を争う内容もあったりするんじゃないですか。しっかりこの辺の何ていうんですか、対応の仕方というものをやらないといけないんじゃないかなと、今やりとり聞いててちょっと心配になりました。しっかりお願いしたいと思います。

もう一件、あれなんですけども、この人、11月13日に根知地区を訪問して、空き家の物件を紹介してもらっています。で、わざわざ物件を見たいからということで、紹介してくれるということで来ているんですけども、このとき何件紹介してもらいました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

このとき物件は、根知地区の1軒のみとなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

プロジェクトとして立ち上げて、少なくともことは2組募集をしている。その前は何人も募集してましたね、ちょっとまあ、あれですけど。それなのに、応募した方は何軒も見られると思って来たら、1軒しか見せてもらえなかったと、わざわざ福井から来て。何軒も紹介して、もっとほかにはないのかと聞いたらだめだと言われたらしいですね。何ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

空き家につきましては、やっぱり本来であればプロジェクトですので複数の、4軒、5軒とか10軒ぐらいすぐ住めるような状態で用意しとけばいいんでしょうけども。いつの段階でオーダーが入るかわからないというところもありますので、なかなかそこまで改修をして、さあ入れるという状況をつくるのは、非常に難しいのかなというふうに思っております。

ただ、地元の区長さんですとかいろんな情報で、市内の空き家、特に根知地域の空き家の情報だけは集めておりますけども、このときはたまたまほかの物件もいろいろ当たってる途中でありましたので、たまたまこの1軒しか該当がなかったのかなというふうに思います。今後はもうちょっといろいろ情報、これからも調整は進めますので、いろんな情報を取りまとめて、いい場所を選んでいただけるような環境はつくっていききたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

このプロジェクトで、じゃあキープしたり紹介できる物件というのを何軒あるわけですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

キープする物件といいますか、どのぐらい用意してあるかというのは、ちょっと今詳細は持っていないのでお答えできないんですけども、あくまでも地元の区長さんとかいろんな情報の中で空き家の物件を取り寄せて、ただ、それが本当に使えるかどうかというのが、実際、中身を見ていかなきゃいけないと思いますので、また修繕の費用も当然かかってまいりますので、そこら辺も調整しながら進めていかなきゃいけないと思います。今、実際、具体的に何軒というのは、申しわけありません、ちょっとお答え今できません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

いろいろ目的はあろうかと思うんです、この事業の。移住してもらって、人口をふやす。交流人口の拡大をふやすとか、あるいは移住者をふやすとか、そういった中で、それを受け入れる体制というものは、できていないのかなと。しっかり応募したことに對して、何人応募した数に對して、これだけのものが紹介できると。応募した人にとって、これから住む家、物件というものは非常に大きな関心事ですわ。それを福井から来て1軒だけ、はい、ここだけです、ほかはだめですというのは、対応としてはどうなんですか。もし逆の対場だったら、わざわざ来て、またとんぼ返りとい

うのは、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今回は、たまたま物件の手持ちで持っているのが1軒しかなくて、ちょっとご迷惑をおかけしたのかなというふうに思っております。これから話が進んでいく中では、1回来て、見ていただいて入るわけでありますので、ほかの地区、どういったものがあるか。そういった物件も見ていただくようなチャンスはつくっていかねばいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

もう一点、家賃も尋ねたそうですわ。で、この物件だったら幾らの家賃かかるんでしょうかと。市のほうでも補助がありますね。その辺の家賃の説明に対して、家賃に対して聞かれたことに対してどのような説明をされたかわかります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

私もちょうど当日いたわけではなくて、詳細はちょっと申し上げられないんですけども、担当からの話ですと、家賃については、やっぱり家主さんと正式な契約を結んでいるわけではありませんので、実際に、例えば2万とか2万3,000円とか、そういった金額はちょっとお示しはできなかったという状況で聞いております。正式な契約を結んでおれば、家賃の提示というのはぼんと出るんですけども、まだ貸してくれそうだとぐらいの情報で、使ってもいいよという承諾をとった物件で対応しますので、家賃については、話が本当に決まっていた段階で詰めていくという状況にさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それでは応募するほうは不安じゃないですか。我々、何でもアパートでもマンションでも、あるいは家を求めるにしても、これは幾らというところで話して、じゃあ将来設計、自分の懐勘定、あるいはいろいろ考えながら、じゃあ払えそうだから入ろうとか考えるんだけど、契約するまで家賃がわからないというのは、おっかないですね。そう思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに議員の言われるとおりでと思います。確かに私が応募者であれば、非常に不安になると思います。

したがいまして、そういった立場に立って、アウトラインだけでも大体相場でどのぐらいだとか、そのぐらいは言えるようにしていかないと不安になるというふうに思いますし、私自身も逆の立場ならそう思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今、課長が言われるようにやはりちゃんとした説明、相手の身になっての対応、これがないと本来だったら右肩上がりですべて移住が決まるところが、なかなか進まないんじゃないかなど。ほかにも原因がいろいろあるかもしれませんが、今回、聞かせてもらった話の中で、ちょっとこれはまずいんじゃないかなど。結構な予算の中で、これじゃあ決まっていけないんじゃないかなど。せっかく応募して、関心を寄せていただいているのに、このような対応では遅いし、真剣みを感じられない。じゃあ住んでも不安になるんじゃないでしょうか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに仕事もそうなんですけども、やっぱり住まいというのは、一番関心のあるところだと思いますので、そこら辺をしっかりと案内できるような物件の情報、それから貸してくれる賃貸料の相場とか、あとそこら辺もしっかりお示しをする中で、いい条件で来てくれるような環境に努めなければならないというふうに思っております。また、そのようにこれからも進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ちょっとこの質問で長くなってしまいました。私も3年前の、28年の9月議会のときには、匠の里については、ワーク・イン・レジデンスの1つの形態として、非常にこの成果を期待して、注目しておったんですけども、ぱっと見たところなかなか成果が上がってないように見受けて、今いろいろ話を聞くとこういったことが浮かんできました。今後、その辺の今までのいきさつを含めて見直しも必要かなとは思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に今お聞きいたしておりまして、対応の悪さというのをちょっと見受けられたと思うわけですが、我々は接する中で、やはり一番重要なのは、地域の中にどうやって溶け込んでいっていただけるか。そういう地域の皆様方がどのような接点を持っていかれるかとか、いろいろやっぱり配慮していきたいと思っておるわけでごさいます、その辺こちらもちょうと要望が少し高いところがあったのではないかなと思っております。そういう中で、接する職員においては、少しこの事業とは少しそぐわないのではないかなというのを感じて、このような形に私もなったのではないかなと捉えているわけでごさいますので、やはりその辺をもう一度確認をしながら、そのガイドラインをもうちょっと明確にしたほうがいいのではないかな。そうしますと求めているものと、また求められるのでは違いがわかって、応募される方もその辺が整理できると思うんですが、その辺が少し曖昧なところがありまして、そのようなことが起きたんだろうと思っております、本当に申しわけなく思っておりますが、また違う観点で、またそういうものができれば、そういった方々を受け入れられるような形をおつくりしていかなくてははいけないだろう。やっぱり熱意のある方、やはり糸魚川で住んで頑張りたいというお方があれば、そういう方向でまた力を入れていきたい。その辺またきっちりと区分けをさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そうなんです。ぜひ今、私も言いたくないことも結構言ってしまいましたけれども、聞いた限りでは、やはりそういったものをちゃんと受けとめて、検証して、これから実績に結びついていくように、やはり地域の活性化というのが1つの目的でもあるということになると、その辺のことが大事じゃないかなと。相手とはやっぱり、これから生活するわけですし、受け入れるほうは、今度、新しい人を交流をしていくわけですから、その辺のところをきちんとやっていかないと入ってしまったら大変です。その辺の不安を抱くとやはりうまくいくものもうまくいかなくなりますので、しっかりやっていただきたいと思えます。

やはりこういったものを検証と同時に、将来イメージするものは一体どんなのかというものを、担当としては、ある程度持っていなくちゃいけないんじゃないかなと。これは一体何年計画で、どれぐらいの作家を募集して、どういうイメージで、この地域の活性化を図っていくという具体的なイメージというのは持っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、実質、作家さんは29年の1月から入ってますので、まだ1年、2年ぐらいなんですけども、まだ作家さんを集めるというところにちょっと主眼が置いてるのかなというふうに思っております。やっぱり最終的には、もうちょっと長いスパンで、今、市内の作家さんとの交流とかという活動でしかまとまっているわけなんですけども、やはり回遊性があって、例えば店舗を構えとか、そういった形で回遊性のあるものが一番理想なんですけども、そこへ行くまではちょっとまた時間もかかる

のかなと思いますので、理想とすれば回遊性のあるものに持っていくのが一番理想かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

しっかりと長期的、今、短期にはそのように移住を募集していく。中期長期的には、募集した人たちと地域の人たちでどのような里づくりをしていくかというものがしっかりできていないといけないんじゃないですか。その辺の何年後ぐらいにはそのようになるという、ある程度やはり目標を立てて、やっていかなきゃいけないし、そうしないと担当のほうも熱意も入ってくるんじゃないですか。そのようにぜひお願いしたいと思います。

ちょっとこれ時間がかかってしまいました。次に入りたいと思います。

外国人の観光誘致の取り組みですけれども、ちょっと飛ばして、外国人観光客に外国語で観光案内ができる案内所としてビジット・ジャパン（V）案内所というのがありますけれども、市内ではジオパルの観光案内所と道の駅マリンドリーム能生の2カ所が、カテゴリ1に認定されておりますよね。この辺の利用状況とか、あるいはここを利用する外国の方の問い合わせたりする、利用する内容、そういったことの分析というものはされておられたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おはようございます。

糸魚川の観光案内所とマリンドリーム能生については、カテゴリ1の案内所になってるということは承知しておりますが、ただ、具体的な数字につきましては、今のところ把握できておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

せっかくこれ観光庁から認定されてる施設ですし、こういったのをやはり目当てに外国の方は訪れて、いろいろと情報収集をする。情報収集した内容で観光目的のところに行くパターンが多いんじゃないかと。

ただ、団体客は、当地域には多いように見受けて、個人客の場合は、そういうパターンがあるんじゃないかなという傾向はあるかと思いますが、やはりそういう情報の分析とか収集とかというものが大事じゃないかなと。そういうことで、ぜひそういったこともこれから取り入れていただきたいと思いますと思うんですけれども。

じゃあ外国の方、旅行者の方のQRコードなどのコンタクトポイント、そういうものを設置してるかどうか。そういったことの利用状況というのはどうか。そういったことはわかりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

外国人の方に向けましては、QRコードの対応で、今のところ「ぐるり糸魚川」という案内システムを持ってるところでございます、あとそのほかQRコードで糸魚川ジオパーク協議会の外国語対応のウェブサイトにも誘導してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今後は、例えばQRコード、スマホを見ながら周遊、あるいは交通機関や所要時間も調べていくとかというふうに個人客はやっていくと思うんですけども、ぐるり糸魚川の場合は、今、糸魚川市内内だけなんですけれども、今後は、広域観光連携のこういうQRコードの対応というものも考えていったらどうかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員のおっしゃるとおり、特にインバウンドの観光客は狭いエリアということではなくて、日本全国でしたり、あとのこのエリアですね、糸魚川、白馬、あともっと広いエリアになろうかと思うんですけども、いろいろ周遊する観光客が多いというふうに理解しておりますので、今言われたとおりのもっと広いエリアで、例えば北アルプス日本海広域観光連携会議ですとか、そのような組織を通じまして、幅広い情報が発信できるように、また情報が受けやすいような仕組みをまた提案して、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

2番のほうにも入っていくんですけども、今話題の民泊、民泊を利用する個人客が非常にふえて、今オーバーツーリズムと言われるぐらいに観光地によっては、非常に多くの方がこれをやるわけですね。民泊サイトの登録も必要になってくるわけなんですけれども、糸魚川の現状としては、どうなんでしょうか。民泊サイト、非常に多くのプラットフォームもだんだんあらわれてきておるんですけども、こういった民泊サイトに登録したり、あるいは登録しようとしている、例えば民宿の方だとか、そういう方への把握、あるいは指導や支援、そういったことは市はどのように行ってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川市の場合、受け入れ体制として、なかなかまだ英語とか外国語でのコミュニケーションをとってガイドをするというのが難しい状況でありまして、一部の事業者の皆さんですとかは、それに取り組まれて成果を上げております。

ただ、民泊とかということになってきますと、そういうコミュニケーション能力とかそういうものも大事になってきますし、今、当面、糸魚川市といたしましては、団体での観光客を受け入れをふやしつつ、そういう個人の外国からいらっしゃるお客さんについて、その受け入れ体制を整備をしていくということが大事ではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

私も市内で、エアビーだとか、あるいはブッキングドットコムとかから、そういうのに登録している宿泊施設があるかなと、非常に少ないですね、まだね。

先日、登録している宿泊所にちょっと市内の方に聞きまして、こういうのを利用して来る外国の方、宿泊される方の糸魚川へ来る目的は何かと聞いてみました。そしたら、ここに糸魚川に来て、宿泊する外国人は、最初から糸魚川の観光を目的にしてこないと。たまたまその宿のあれかもしれませんが。ほとんどが金沢や富山の宿がいっぱいになっているか、あるいは非常に高くなっていて、長期滞在するのにお金がかかるから、新幹線を利用すれば糸魚川は数十分で来れるから、糸魚川の駅の近くの宿にエアビーやブッキングドットコムを使って探してくると。で、レールパスとかを持っているから、交通費は気にならない。こういう旅行目的、観光目的、そういう情報収集、分析が必要なんだけど、こういった話をどう思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員のおっしゃるとおり、周辺の観光地へ来られた際に寄るというケースが多いというふうに考えておりまして、この宿泊も、例えば立山黒部アルペンルートへ行く際、また終わった後にここで1泊していくという話も聞いております。また、今、谷村美術館等にも数千人の、日帰りですけども、立ち寄りのお客さんがおられますけども、これも高山ですとか名古屋のほうとの、何といいましかネットワークといいますか、その中での立ち寄りというのを聞いております。いずれにいたしましても立ち寄っていただいているのは間違いないわけですので、それをいかに地域に取り込んでお金を落としてもらえようような仕組みで対応できるかというのが今後の課題であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そうですね。やはり来てもらわなければ意味がないので、そういう意味ではこういう情報というものは大事ですし、来れば、この地域にはどんなものがあるって、どういうおいしい食べ物があるって、どういうお酒があるって、それを楽しんで、訪れて、お金を落としてくれると。その辺をしっかり対応していくことが、今後、個人客ふえていくんじゃないかと思えますし、また、ふえるように取り組みも必要だし、またその環境整備も必要じゃないかと。その環境整備の中でレールパスは、非常に多くの外国人の方が利用しているんですけども、JR各社と並行在来線も一部利用できるんですが、この辺では石川や富山の並行在来線もできるようなんですけども、えちごトキめき鉄道はどうなんでしょうか。その辺の情報はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今ほど議員おっしゃったようにジャパン・レール・パスにつきましては、JRグループが共同で企画運営している切符でございます。基本的にはJRのみなんですけど、隣の「あいの風とやま鉄道」、あともう一個隣の「IRいしかわ鉄道」のほうで一部利用できる区間がございます。それに対してえちごトキめき鉄道は、利用できる区間がございません。これに関しては、いろいろ調べもんでみますと、富山、例えばあいの風とやま鉄道の例でいいますと高岡・富山間のみの通過利用という条件がついております。これがどういうことかなというふうに考えますと、レールパスの対象になる新幹線で富山駅まで来て、その先の高岡から出ておる氷見線ですとか城端線、JR自社線に乗るためには、どうしてもその間、三セク線を利用しないと、あいの風を利用しないとその先のJR線につながらないためと。同じようにIRいしかわ鉄道の場合にもそのような設定をされておると。糸魚川市の場合は、新幹線で来て、大糸線のほうにそのまま行けるということで、今の三セク会社の設定に関しては、えちごトキめき鉄道はないということは、そういう理由かと思われまます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

わかりました。可能ならば使えるにこしたことはないなと。ここへ来て北陸新幹線でおいて、そこからいきなり有料ですよというふうになるわけで、その辺を理解していただければいいんですけども、今後の、何といたしましうか対応の中で、もし申し込みやら何やら前進できることがあったら、そのようにまた推していただけたらなと思えます。いろいろと多くの外国の方、国によっていろいろと求めるものが違うかと思えますし、滞在期間も違うんですけども、一般に外国の方は長期滞在が多いので、非常に気に入るとそこに長くいると。やはり交通機関、二次交通というものは非常に大事になってくんじゃないかなと思えますので、そういったことの対応をよろしくお願ひい

たしたいと思います。

最後になりましたけれども、米のほうなんです、先ほど土壌改良等の補助をしているというんですけど、ちょっとその辺の具体的な取り組みを紹介していただけたらと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

干ばつによるひび割れの対応でございますけども、国の災害の対象になるのは田面から七十センチの深さのものであります。なかなかそういうものは出てきません。そんなことから県のほうでは、畦畔から50センチのものまで対象にさせていただいております。

ただ、そういうひび割れについても幾つかはありますが、多くは小さなひび割れが無数に入っておるといようなことから、これは市とJAと単独で協力をしながら土壌改良材を補助をしております。具体的には、874円のベントナイトという土壌改良材なんです、それに対して糸魚川市では1袋当たり300円、JAひすいでは324円、個人の方のご負担は250円という内容で助成をさせていただいております。

その結果、現在のところ87名の方からご利用いただいております、袋の数といたしましては、2,800程度ご利用いただいておりますという内容でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ありがとうございます。

先日、グルメに人気のミシュランガイドで浅草のおにぎり専門店の「宿六」が選定されました。そこで使用されるお米が糸魚川産のコシヒカリということで、非常に話題になりました。ぜひ今後もおいしいお米のとれる糸魚川ということで、頑張ってもらっていただきたいと思います。私のお話を終わります。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時11分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。